

令和5度 日向市立細島小学校 自己評価及び学校関係者評価

学校経営ビジョン：すべては、細島小の子どもたちと細島地区の人々のために

【評価基準 4段階評価 4…期待以上 3…期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】

重点指導項目		目標及び取組 (〇…目標 数字…取組)	評価内容及び結果	自己 評価	改善策	委員 評価	学校運営協議会での意見や回答など
命を大切に する心情と 実践力の育 成	1 特別支援教育と道徳科授業の充実、日々の児童との交流により、望ましい人間関係づくりと命と人権を大切に する心情と態度を育てる。	1 いじめの未然防止と迅速対応 (1) 悩みアンケートの実施及びその後の教育相談の実施 (2) はぐくみサポート会議での全職員による共通理解、共通実践 (3) 気になる児童についての情報共有 (4) 「いのちを大切に学習」の実施(宮崎のち教育) (5) 「いのちの大切さを考える週間」の実施 2 議論する道徳を通した実践 (1) 「特別の教科 道徳」の指導改善・工夫 (2) 「ポジティブの木」の実践 (3) 各教科、全領域においての人権学習の実施	【アンケート質問項目】 自分がされて嫌なことは、友だちにしていない。 (結果) 児童・3.5 保護者・3.3 地域・3.8 職員・3.4 毎月の悩みアンケートと教育相談の実施を行うことで、大きな事柄になる前に対応できた。 また、はぐくみサポート会議で、全職員で共通理解を図り、共通実践できた。 【アンケート質問項目】 家族や友だちから大切にされている。 (結果) 児童・3.7 保護者・3.8 地域・3.6 職員・3.5 【アンケート質問項目】 友だちに優しくできる。 (結果) 児童・3.5 保護者・3.3 地域・3.6 職員・3.1 「いのちを大切に学習」や「特別の教科 道徳」の指導改善・工夫等の実施により、概ね良好であった。しかし、個別指導を必要とする児童がみられた。	4	1 いじめの未然防止と迅速対応 今後も継続して、悩みアンケートの実施及びその後の教育相談の実施に取り組む。 「いのちを大切に学習」や「いのちの大切さを考える週間」の実施し、保護者や地域の方に参観する機会を設ける。 2 議論する道徳を通した実践 今後も継続して、「特別の教科 道徳」の指導改善・工夫を行い、各教科、全領域においての人権学習の指導の工夫を行う。	4	○ 避難訓練では、逃げる場所は決めているのだろうか。避難訓練はいろいろな場面を想定して実施したほうがよい。(遠足、修学旅行、下校中) ○ 避難訓練は、月一回想定場面を変更して行っている。大きな地震の場合は、避難ブリッジが使用できない場合もある。その場面も想定しながら実施している。更に児童の力を高めていきたい。 ○ 地域とともに避難訓練を行い、児童の意識を高めていくとよい。液状化の可能性もある。液状化について理解を深める必要がある。 ○ 公民館職員と協力して、避難訓練を継続していくとよい。
	2 日常的な防災学習の充実により、児童及び職員の危機予知力や危機回避力を育てる。	1 防災学習と連動した避難訓練 (1) 避難訓練を毎月、様々な状況を想定して実施する。 (2) 外部の関係機関と連携を図り、より専門的に指導していただく機会を設定する。	【アンケート質問項目】 地震や津波が起きたときに正しい行動ができる。 (結果) 児童・3.7 保護者・3.3 地域・3.8 職員・3.4 毎月の避難訓練の実施により、児童の避難への意識の向上や迅速な行動が見られた。		1 防災学習と連動した避難訓練 毎月の避難訓練を実施するとともに、外部の関係機関と連携を図り、更に防災教育を推進する。		
確かな学力と健康な体の育成	1 児童の実態に応じた柔軟な学習指導過程ときめ細かな指導により、児童に分かる喜びや学ぶ楽しさを実感させる。	1 児童の実態に応じた授業改革、学びの時間の充実 (1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を目指した指導方法の工夫(ひなたの学習を取り入れた学習指導、習熟の時間の確保) (2) 全職員による学びの時間「さんさんタイム」への取組 (3) 花まる先生の積極的活用 (4) タブレットP.Cの活用 (5) 学校図書館貸出冊数 一低学年100冊、中学年80冊、高学年60冊以上 (図書館主任、図書司書による図書館の取組整備)	【アンケート質問項目】 国語の学習に意欲的に取り組んでいる。 (結果) 児童・3.5 保護者・3.1 地域・なし 職員・3.1 【アンケート質問項目】 算数の学習に意欲的に取り組んでいる。 (結果) 児童・3.6 保護者・3.2 地域・なし 職員・3.3 全職員で主教材修算教科中心に行い、ひなたの学習を取り入れた学習指導の実施し、児童の意欲の向上を図ることができた。また、さんさんタイムで、書く力や計算する力を高める指導を全職員で行うことができた。 【アンケート質問項目】 進んで図書室で本を借りている。 (結果) 児童・3.2 保護者・2.8 地域・3.5 職員・3.1 低学年83.1冊、中学年58.1冊、高学年35.8冊と図書室の利用貸出冊数に昨年度と比べ非常に向上した。しかし、家庭での読書時間の確保が課題である。	3	1 児童の実態に応じた授業改革、学びの時間の充実 今後も継続して、「ひなたの学び」を取り入れた授業改善に取り組み、児童の興味・関心を高める。また、花まる先生の活用を推進し、個別指導の充実を図る。 そして、家庭、地域と連携した読書指導の充実を図るとともに、職員のICT活用力を高め、タブレットの活用を図り、学習意欲の向上につなげる。	4	○ 教師の教材の準備がとてもよい。児童にとってありがたい。しかし、児童の学習の取り組み方に差を感じる。児童の意識を高めることも大切である。 ○ 姿勢がよいとはいえない。机が狭いのか、鉛筆などを落とす場合があった。机を広くすることはできないか。 ○ 教科書、ノート、タブレットと日ごろ使う道具が多くなっている。場面ごとにに応じてしっかり使用させたい。また、教育委員会やPTAとも協議して、補助具などの購入ができないか検討していきたい。 ○ 給食はしっかり食べているのであろうか。食の指導の充実が大切である。 ○ 給食は、時間内に食べきれるように量を調節している。食べきるようになっている。しかし残さいは0ではない。今後も給食指導に工夫して取り組みたい。
	2 体力向上プランの完全実施と保健衛生指導の充実により、児童に健康な生活習慣と実践力を育てる。	1 体力向上プランの完全実施 (1) 体育科指導方法の工夫・改善 (2) 体育的行事の推進 (運動会、ロードレース大会の実施) 2 保健衛生指導と食育の推進 (1) 健康で規則正しい生活習慣の徹底 (毎朝の「は・て・つ・ほ」の確認とエチケット検査) (2) 給食指導の充実、弁当の日実施	【アンケート質問項目】 児童は、進んで運動に取り組んでいる。(体育の学習、屋外での遊び、休日の外遊び) (結果) 児童・3.7 保護者・3.3 地域・4.0 職員・3.5 体育指導と日常指導をしっかりと行いながら、運動会、ロードレース大会の体育的行事で運動への意識を高めることで、児童の運動意欲をもたせることができた。 【アンケート質問項目】 健康な生活を意識して学校生活を送っている。(エチケット検査、手洗い、うがい、給食) (結果) 児童・3.5 保護者・3.3 地域・3.5 職員・2.9 毎朝の「は・て・つ・ほ」の確認とエチケット検査で意識は高まっている。しかし、個別指導を要する児童もみられる。また、日常の給食指導や弁当の日実施で、食の大切さについて、意識をもたせることができた。		1 体力向上プランの完全実施 体育科指導方法の工夫(安全と運動量の確保)や遊具などを活用した体力の向上を図る。 また来年度も運動会、ロードレース大会の実施し、運動意欲を高める。 2 保健衛生指導と食育の推進 家庭と協力しながら、毎朝の「は・て・つ・ほ」の確認とエチケット検査を継続し、健康で規則正しい生活習慣の基礎を育成していく。		
コミュニケーション力の育成	1 地域人材を活用した学習を取り入れることにより、児童に地域を愛し積極的に交流を図ろうとする態度を育てる。 2 学社融合行事を意図的、計画的に教育課程に位置付けることにより、コミュニティ・スクールの推進に取り組む	○公民館とのタイアップ (公民館講座への児童の参加「魚さばき」など) ○学校支援ボランティアの充実 (ボランティアの募集、打ち合わせの工夫) ○社会に開かれた教育課程の編成 (細島版コミュニティ・スクールの実現) ○関係機関との連携 (細島区長会、HOSOSHIMA まちづくり協議会、民生員連絡協議会との連携強化)	【アンケート質問項目】 児童は、地域人材を活用した授業に意欲的である。 (結果) 児童・3.5 保護者・3.1 地域・4.0 職員・3.6 公民館講座への児童の参加や学校支援ボランティアの活用が継続でき、意欲的に学習できた。 【アンケート質問項目】 児童は、細島地区や日向市が好きである。 (結果) 児童・3.7 保護者・3.6 地域・4.0 職員・3.7 細島区長会、HOSOSHIMA まちづくり協議会との連携を図り、細島版コミュニティ・スクールの実現に向けて、継続的な取組が実施できた。細島地区や日向市のよさの学習が、細島を好きな児童の育成につながった。	4	公民館講座への児童の参加を継続し、各教科等の年間学習計画に位置付け、学習支援ボランティアの活用を含めた持続可能な取組を行う。 また、社会に開かれた教育課程の編成(細島版コミュニティ・スクール)を行い、細島区長会、HOSOSHIMA まちづくり協議会、連携し、新たな取組を計画していく。	3	○ 挨拶がしっかりとできる児童がいるが、まだまだできない児童もいる。 ○ 学校関係の方にはできるが、地域ではもっと挨拶ができる児童になってほしい。せめて見守り活動をしている方には、きちんと挨拶できるようにしてほしい。

	項 目	結 果	自己 評価	改善策	委員 評価	学校運営協議会での意見
小中一貫教育に関する評価	1 グランドデザインは、自校の教職員で共通理解できている。	富島中学校区のブロック研修会を開催し4つの研究班に分かれ、小中職員で議論し、共通実践を図った。但し、共通実践の項目が多く、十分な共通実践ならなかった。	3	富島中学校区4校の教職員で児童生徒の課題を議論し、課題を生徒指導実践会議等で学校が担う内容と地域及び保護者が担う内容に分けるなど組織的・機能的に課題に対応する。グランドデザインについては、PTA総会で保護者へ示したり、地域へ回覧したりして周知を図る。	4	○ 地域行事に参加することが当たり前になってほしい。日ごろから、清掃活動など心がけることも大切である。 ○ 中学校と一緒に becoming の挨拶運動などができるとよい。
	2 グランドデザインは、家庭や地域に理解されている。					
	3 めざす児童生徒像実現のために、富島中学校内の学校で共通実践が進められている。					
	4 小中一貫教育の取組により、めざす児童生徒像の姿に近づいている。					